

1. 件名：「日本原燃株式会社におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋第1
排風機B異常警報に伴う停止に関する面談」

2. 日時：令和元年10月9日（水）13：30～15：30

3. 場所：原子力規制庁 2階北会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 核燃料施設等監視部門

白井上席監視指導官、福吉主任監視指導官、松本主任監視指導官

日本原燃株式会社

東京支社 技術部 部長 他7名

5. 要旨

日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）と以下の内容について面談を実施した。

（1）日本原燃から、令和元年8月26日に発生した「ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の第1排風機B異常警報発報に伴う停止」事象について、同年10月2日の面談で指摘した排風機のVベルト選定条件等について、以下のとおり説明があった。

- ・Vベルトの平均寿命は主に環境温度に支配される。メーカー参考値である推定寿命（環境温度40℃で8,000時間）に対し、実際の環境温度（45～60℃）を考慮すると、高耐久グレード「レッド」の推定寿命は3,000時間を超えるため、2005年の設計変更時に設定した点検周期3,000時間は妥当と判断している。
- ・当該排風機に係るその他の消耗品であるベアリング、グリース及びオイルシールについては、材質を変更すること等による設計変更を行い、3,000時間を目安として点検を行っているが、設計不良による部品の有意な損傷は確認されていない。
- ・2005年以降の設計変更以降、排風機A及びBにおいてVベルトの緩みが生じた事象が、2012年、2015年及び2018年に3回発生している。いずれも排風機停止には到らなかったが、念のためVベルトの交換を行っている。交換したVベルトはいずれも高耐久グレード「レッド」であり、仕様どおりであった。
- ・2019年1～2月の定期点検時の排風機A及びBのVベルト交換時に、高耐久グレード「レッド」を使用すべきところ、スタンダードグレード「ブラック」を取り付けたが、当時作業要領書の変更は行われなかった。本来であれば、排風機の性能品質に影響を及ぼすものであるため、作業要領（手順）書の改訂を行うべきであった。
- ・社員の現場立会いは、保修担当課長が選任した工事管理員が立ち会うこ

とになっているが、Vベルト取り付け時は記録確認であり、立会いとはなっていない。

(2) 原子力規制庁から、作業毎の現場立会頻度など不明確な点があることを伝えた。

6. その他

配付資料

○「ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における排風機（A・B）の故障」
事象に対する原子力規制庁からの問い合わせ事項について

参考

※1 令和元年10月2日の面談

「日本原燃株式会社におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋第1排風機B異常警報に伴う停止に関する面談」